クラブ特集 ～私たちがんばってます～

入間METS

自主性を尊重し結成2年で全国出場

入間市の中学生軟式野球チーム・入間METSが「第13回全日本少年軟式野球クラブチーム選抜大会」（8月11～14日、滋賀）に出場する。将来の可能性を広げるため、楽しくプレーすることを掲げて2021年3月に設立。自主性の尊重、仲間との問題意識の共有など、グラウンド内外で培った経験が成長につながり、結成からわずか2年余りでの全国出場となった。

初の全国大会で飛躍を目指す入間METSナイン

入間METS

選手名	学年	
菅原 爽太	③	花岡 晴翔
蟹沢 拳叶	③	田中 耀斗
		宮城 太陽
		吉崎 竣
		間川 聖斗
		小松崎 善
		井ヶ田 朔也
		石井 奎吾
		渡辺 大介
		友野 瑛太
		松崎 立樹
		高嶋 蒼
		千葉 大輔
		山本 柊
		不破 樹一
		長谷川 幸太郎
		橋本 拓海
		笹原 雄晴
		小松崎 弾
		佐藤 颯飛
		山本 遼太
		岩崎 朝陽
		長島 洸陽
		花岡 咲愛
		宮本 里彩
		清水 悠佑
		森田 太陽
		澤田 鳳志
		川口 隼和
		島崎 玲音
		新井 陽希
		平沼 恵大
		西川 武蔵
		鈴木 哲朗
		堀田 空
		古井戸 晴仁
		中村 翔真
		喜多川 修明

菅原主将「みんなで『笑顔で終わろう』と決めています」

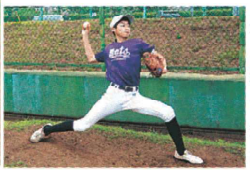
学校に野球部ない

初の全国大会を目前に、1期生を中心とした入間METSのメンバーが、盛り上がりを見せている。「うちの持ち味は団結力。全国の舞台でその力を見せようとモチベーションも上がっています」と菅原爽太主将（3年）。球を追う姿に力みはなく、ここまで続けてきた通りの自然体だ。

「学校に野球部がない」などの声にこたえ、2年前に設立。「練習の強制参加はなし。勉強や学校の部活動を優先する時も」（長谷部義之監督、55）と、選手の自主性を尊重した活動を続けてきた。小学生時に始めたマリンバという楽器での音楽活動、学校では剣道部に所属と“三刀流”をこなした千葉大輔外野手（3年）は「大変な時もあったけどすべて楽しく活動できた。その中で本職の野球で全国に行けるのは本当にうれしい」と笑顔だ。

この笑顔が最大の武器（左から千葉、菅原主将）

応援する地元企業のロゴ入りユニホームで活躍を誓う友野捕手



多彩な変化球で打者を打ち取る吉崎投手

「楽しくプレー」を追い求めるからこそ、技術や精神力の向上があった。結成当初は上級生相手の試合で敗戦続き。「やっぱり悔しさもあった。もっと野球を楽しむために」（菅原主将）と、自主練習の質にも」だわった。4番の花岡晴翔（3年）は「試合の反省をその日からの素振りに生かし、状況に応じた打撃を考えるようになった」と、主砲の立場を確立した。

吉崎竣投手（3年）は「投手同士のキャッチボールの中でツーシームを覚えた」と、ライバルと高めあいながら投球の幅を広げた。試合中は選手がタイムをかけてポジショニングなどを確認。雨の日は選手だけのミーティングなど、個々の意識の向上は問題意識を共有することにもつながり、それがチーム全体のレベルアップとなった。

吉崎は「METSに入って良かった。この大会が最後なので、上位に入ってこの仲間と長い時間を過ごしたい」と話した。そして菅原主将は「みんなで『笑顔で終わろう』と決めています」と続けた。初の全国舞台は、日本一の笑顔で締めくくる。

勝負強い4番・花岡

◆取材にうかがいます　さいたま報知ではこのコーナーの掲載クラブを募集しています。競技にかける熱い気持ちを持つチームに取材にうかがいます。応募は〒130-8633報知新聞社販売局「さいたま報知・クラブ特集係」、FAX03・6284・1062、https://www.saitama-hochi.comまで。お待ちしております。